

平成 17 年度「特色ある大学教育支援プログラム」  
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	慶應義塾大学	整理番号	12016
応募テーマ	主として教育課程の工夫改善に関するテーマ		
取組名称	文系学生への実験を重視した自然科学教育		
申請単位	キャンパス単位		
申請担当者	表 實		
<p>(取組の概要)</p> <p>慶應義塾大学日吉キャンパスでは、その規模と陣容において一つの理学部に匹敵する組織（自然科学部門）が、文系4部（文・経済・法・商）に横断的に所属し、その学生を対象とする実験重視の自然科学教育に取組んでいる。この取組は、1949年の新制大学移行時に、文系学生に対する「実験を含む自然科学科目」を設置したときに始まる。以来50数年にわたって、この取組を精力的に実践し、現在文系4学部の4000名を超える全ての学生が自然科学科目を履修し、そのうち実に2800名（約7割）が「実験を含む科目」を選択している。本取組の理念は、自然科学の本来の意義を理解し、その思考法を体得した文系学生を世に送り出すことであり、その有効性は本学独自の調査からも明らかとなっている。2004年度から法学部では、自然科学等の領域を副専攻とする「副専攻認定制度」をスタートさせた。このことは、大学教育の新しい展開として強調したい。本取組の理念とその実現に向けた創意・工夫は、大学教育のひとつのモデルとなり得るものと考えらる。</p>			
<p>(採択理由)</p> <p>この取組は、慶應義塾大学が新制大学としてのスタート以来、文系の学生に論理的思考能力を涵養することを目的に積み上げ、2002年からは「総合改革プラン」における「感動教育実践」の目標に向けて位置づけられた取組です。</p> <p>「自然科学の真髄」は社会や人間の意識改革につながるという認識、したがって自然科学の知見が文系学生にとって大きな意義を有するという認識に基づいて、文系学生への「実験重視の自然科学教育」を長期にわたって実施してきた実績は大きな評価に値します。学生の70%が実験を含む自然科学科目を履修している実績と、4文系学部に分属している自然科学系教員の共同によってこれを可能にした全学の組織的努力は特筆に値します。大きな資源を有する大学だからこそ可能であったという側面もありますが、文系学生の自然科学離れが広がっている中で、自然科学の知見に関する上記の認識やそれに基づく大学の組織的実践は、多くの大学、短期大学の参考になりうる優れた取組であると評価できます。</p>			